《第99回》令和三年九月の作品

〈九月十日（金）通信句会〉

池に映る赤き社や涼新た　（隆治）

ほととぎす聞かむと一人奥秩父　（清助）

海嘯の合間に茂る柾の実　（前歩）

肌掛を自ずと手繰る秋の宵　（孝昭）

庭草の葉陰揺らぎて虫の声　（正雄）

蜩や勝手口より御用聞き　（一江）

枝豆の緑でくるむずんだ餅　（芙紗）

我が植ゑし秋の七草真っ盛り　（貴美）

好物の酒を手向けて秋彼岸　（平六）

庭先をよたよたよぎる秋の蝶　（奉男）